

# 公民館月報

K O M I N K A N G E P P O

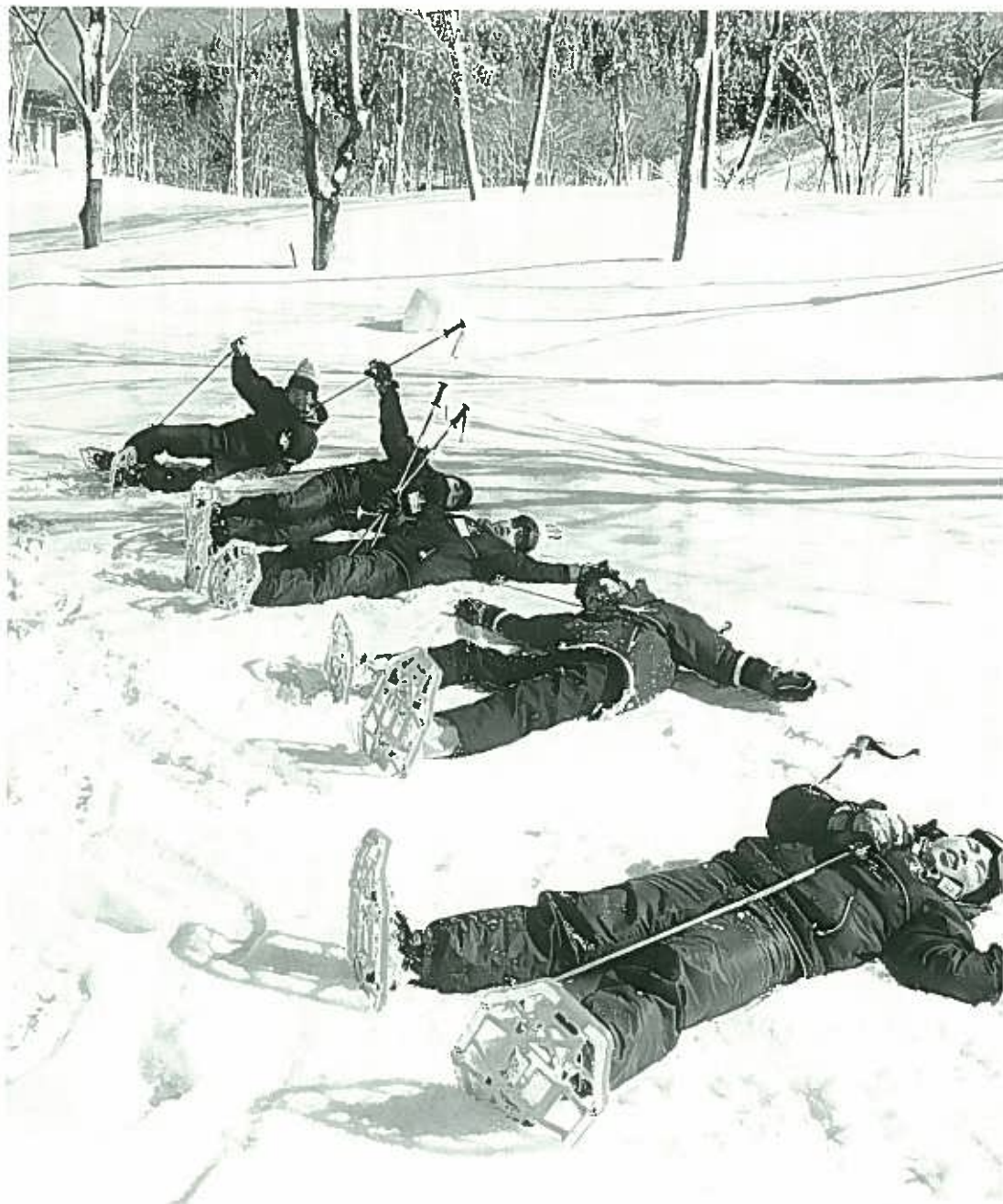
2004

2

February

## 4.5 特集 大学と公民館の連携

- 2 **トピックス** 「社会教育事業の検証・評価調査研究会」に参加して
- 3 **視点** 公民館を利用させていただいて
- 3 **ひろば** 新春書初大会に思う
- 6 **実践記録シリーズ** 市町村合併を考える
- 7 **サークル交流** 古文書同好会（栃尾市公民館）／つくしんぼ（中之島町公民館）
- 7 **素顔拝見** 阿部博文さん（三条市）／佐藤真和さん（神林村）



入広瀬村

# 「社会教育事業の検証・評価調査研究会」に参加して

長岡市中央公民館館長 神林 茂



みなさん既にご存知のとおり、文部科学省では平成15年6月6日付けで「公民館の設置及び運営に関する基準」の全面改正を行いました。今回の見直しにあたって文部科学省は①地方分権の推進に伴う定量的、画一的な基準の大綱化、弾力化と②多様化、高度化する学習ニーズや国際化、情報化等の進展に伴う現代的課題へ対応することと謳っています。

りを進めていくことであり、事業を実施することだけが目的ではありません。したがって、これからは自己点検や自己評価を行うことにより、公民館の機能と必要性を示すことが不可欠となるのではないのでしょうか。そして点検結果を地域に公表することで、より積極的な住民参加が期待できるとともに、住民に対する説明責任を果たすことができるものと考えます。

今回の改正では、十分な時間が取れず短い期間で審議が行われたという感があり、少し残念なことだと思っておりますが、第4条「家庭教育支援の充実」や第5条「奉仕活動・体験活動の推進」に努めることが明文化され、公民館がその推進役として積極的に取り組むことを求めていることは、現代的課題に対する公民館の役割に期待されているものと考えます。

中でも第10条に「事業の自己点検、自己評価」が新規に盛り込まれたことは、大変意義があるものと思っております。公民館の目的は、学びをとおして人と人とを結び、地域づく

育事業の評価指標の開発」となっており、研究の趣旨として「公民館で行われている社会教育事業を検証・評価するために標準的なモデル指標を開発し、社会教育行政の参考に資する」となっています。

今回の事業評価は、各公民館で実施されている事業の状況を把握し、公民館の運営を改善することに役立てることを目的とするものであり、本評価によって、公民館が地域に果たしている役割とその存在意義を明らかにすることをねらいとしています。行政が行っている行政評価や事務事業評価のように、効率性や有効性のみを求めるものではなく、「公民館事業の改善に役立てる」、「公民館事業について説明責任を果たす」ことを目的に、職員、事業担当者自らが行う自己点検評価であります。

平成15年度のスケジュールと会議内容は、次のとおりとなっています。

- 平成15年7月 第1回委員会 (研究内容・方法の検討)
- 9月 第2回委員会 (評価方法及び具体的な評価項目の検討)
- 10月 作業部会
- 11月 第3回委員会

- 標準的な評価指標の検討、評価方法・項目の決定
- 12月 現地調査 (公民館事業の評価検証(全国12箇所) 作業部会)
- 平成16年1月 第4回委員会 (評価指標の活用方法の検討、報告書の検討)
- 3月 第5回委員会 (報告書等の作成)
- 12月11日(木)と12日(金)に現地調査を行ってきました。私と清水英男氏(聖徳大学教授)と事務局の井上専門調査員(社会教育実践センター)の3名で調査にあたりました。私たちの今回の調査対象は、兵庫県のO市中央公民館とN市中央公民館の2館です。
- それぞれ特徴のある事業運営が行われている公民館でした。O市中央公民館では、公民館の原点に返るといふことで、これまで行ってきた趣味・教養講座を3年間かけて廃止し、地域づくりのための講座に切替えを行ったということでした。
- また、N市中央公民館は、講座のテーマを現代的課題や地域課題など7つに分けて取り組まれました。

今回の調査では、両公民館と

も既になんらかの形で自己点検を行っていましたが、今回の自己点検票に対して大きな期待を両公民館とも寄せておられました。そして、「館長さんや職員の間で協議改革が図れるような実践的な点検票が出来上がるかが課題である」とのご意見をいただきました。そういった意味においても、これからの委員会でのまとめが大変重要になってくるのではないかと感じながら帰郷しました。

最後になりましたが、全国的に地方分権が叫ばれ、新潟県においても市町村合併が推し進められています。このように、私たちの公民館を取り巻く状況が大きく変わろうとしている現在、公民館においても、その役割や存在意義が問われています。今後は、より地域に密着した活動や取組みがますます期待されています。

このような時こそ、「チェンジ(CHANGING)はチャンス(CHANCE)(Gの鍵(T)を取りなさい)」をキーワードにして公民館活動を推進していただきたいと思います。

本研究会の成果が、これからの公民館運営の方向性を見定める上で、少しでも参考になれば幸いです。

# 視点

## 公民館を 利用させていただいて

新潟市鳥屋野地区公民館  
定期利用団体協議会会長 桐生ミツ子



5年前、毎日が仕事に追われた生活に区切りを付け、仲間入りをしました。「習ってみようと思つたら少しでも若い内の方がいいよ」のアドバイスで年齢を感じさせない、何事も前向き、一緒にいると楽しい人等々、たくさんのお出合いに感謝。

昨年、最大行事の文化祭の運営にあたり、何回もミーティングを行ない、多くの会員の皆様と職員の皆様のご協力で「和」のなせる力の大きさを改めて感じさせられ、趣味を通じての元気、生活文化の向

上をめざす、その生きかいた元を見させていただいたような気が致しました。

「来年も楽しみにしています」の声に、疲れの吹き飛ばす思いでいっぱいでした。

老化も気から、生涯学習社会において施設に恵まれ、学びを通して、これからの生き方探し、第二の人生のサポートとして、地域社会のお役に立てますように。私もいろいろな人との出会いを通して、心を開き、ありのままの自分を輝かせていかれたら最高です。

# H O T N E W S

## 掲 示 板

県公連市町村合併問題調査検討委員  
県外先進地視察概要報告  
(詳細報告は、3月号特集欄で)

### 1. 視察地と期日

- ・山梨県富士河口湖町生涯学習課  
2月9日(月)14時～
- ・静岡県修善寺町生涯学習課  
2月10日(火)9時～

### 2. 視察訪問者 4名

- 副委員長 秋山千恵子 (県公連副会長  
上越市立公民館長)
- 委員 雲尾 周 (新潟大学教育人間科学部  
助教授)
- 委員 佐藤 貞夫 (県公連評議員  
小須戸町中央公民館長)
- 事務局 鈴木 友夫 (県公連事務局長)

### 3. 視察内容

- (1)合併前の組織(公民館の組織)と合併後の組織の大きな変更点
- (2)合併に関する調整をどのセクションで行ったか(または、行っているか)
- (3)合併する町村間の相違点をどのように調整したか(または、しているか)
- (4)公民館事業の展開上での中央館と地区館の役割分担(併せて予算も)
- (5)職員配置、とくに社会教育主事等専門的職員の配置
- (6)公民館運営審議会の設置状況
- (7)その他 課題、問題点、苦労話等

# ひろば

## 新春書初大会に思う

中之口村公民館運営審議会委員 佐藤 悦郎



また、道徳心の高揚も図られることと思います。

市町村の合併も間近にありますが、地域の良き伝統行事の継承を節に望みます。

### 「補注」

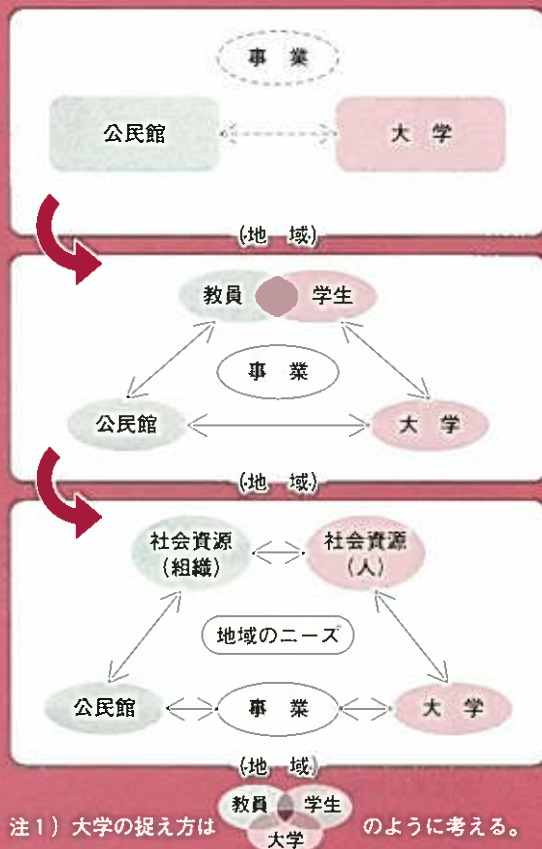
大会は、村の公民館と書道愛好会の共催(21回)。今年は中之口村50周年記念も兼ねて開催された。


子どもたちの作品は、2月1日まで村の先人館ギャラリーに展示された。

村恒例の新春書初大会は、4日総合体育館に村内の小中学生約230人が一堂に集い、それぞれの課題語句を熱心に筆を走らせ書き上げた。

今はコンピュータの時代かも知れないが、自分の頭や手で表現することにより、勉強と素直な心を育て





注1) 大学の捉え方は、のように考える。

注2) 地域のニーズは、地域住民の学習課題、生活課題又は地域課題として理解する

図 連携の構造 (展開イメージを含む)

段階があります。例えば、学習の機会や場所、情報等を提供するなどの段階で、いわゆる関係機関との連携といわれるものです。

次に、相互の問題意識や情報、事業、今後の計画等を理解して、地域のニーズに対する認識や事業の目標等を共有する段階があります。例えば、公民館と大学の二者、あるいは学生を含めた三者で情報交換や意見交換を行うなどの段階です。

第三段階としては、共通の目的に対して、相互の役割や専門性等を確認しあった上で、共同で地域のニーズを明らかにし、計画を立て、役割分担して事業や活動を行う段階で、真の意味での連携と言えるものです。

これらは、大学と公民館との関係だけではなく、家庭や地域社会、学校との連携やネットワークにおいても共通するものと言えます。

#### ○連携のポイント

新潟市北地区公民館が、教育や文化はもとより保健・福祉・環境・交通など地域住民の幅広いニーズに対応して、「新たな地域づくりの拠点」として機能し始めています。これは、連携の仕組みを単なる「公民館」と「大学」という二者の関係で

はなく、「教員」や「学生」との関係を取り入れた立体的（トライアングルの）な構造になっていることがポイントです。特に、学生は、「組織と人」や「人と人」を繋ぐだけではなく、「地域住民の学習ニーズ」と「組織」と「事業や活動」と「人」を繋ぐ役割を果たし、機能的なネットワークを可能にする大きな要素になっていると言えます。

#### 5. 今後の課題

私は、大学と公民館の連携のキーワードは、「新たな地域づくりの担い手としての役割」であると考えています。したがって、情報のネットワークや事業の共催等を通して、多様な学習機会と情報提供に努めるといった段階から、共通の目的に向けたパートナーシップと、地域の特性や実情等に合致したネットワークの段階に発展させていく必要があります。

そのためには、

- 地域住民一人ひとりの生活の中にある困難や問題に焦点を当てて、地域のニーズを個別的に理解すること。
- 地域のニーズに向けて、公私の様々な社会資源がチームを組んでアプローチするという認識や、必要な情報等を共有すること。
- そのチームにおいては、それぞれの機能や役割、専門性、経験等が異なっていても、対等な関係を維持すること。
- 「地域のニーズの把握と事前評価→支援計画の作成→支援計画の実施→支援内容の点検と評価」といった各段階において合意形成するプロセスを持つこと。

などが大切な要件になると思われます。

大学と公民館の連携においては、それぞれが地域住民のエンパワーメントの視点に立って、地域のニーズに的確に対応するためには、「何が重要であって、何が欠けているのか、どのように取り組むのか」といった自己点検と、真の連携に向けた力量アップに努める時期にきているのではないのでしょうか。

最後に、もう一度、県内の大学数、学生数及び教員数を思い返してください。これらが、それぞれの要素を最大限に生かして地域との連携に取り組んだら、きっと新しい風が吹くものと確信しています。

# 大学と公民館の連携

## 特集

### 新たな地域づくりの 担い手としての役割

新潟医療福祉大学講師  
丸田 秋男



#### 1. はじめに

「大学と公民館の連携」というと、皆さんはどのようにイメージされますか。公民館の運営等について意見を聴く、専門的な知識や技術に関する情報提供を受ける、あるいは各種講座や講演会等の講師を依頼するなどのイメージに止どまっていますか。

新潟県内の大学（短期大学、高等専門学校を含む）は、平成15年5月1日現在で24校であり、学生数は26,459人、本務教員数は2,597人に上ります。公民館は、これら県内の大学と学生や教員との連携をどのように進めていけばよいのでしょうか。

大学の教員としては、3年という短い経験です

が、新潟市の公民館等において実際に携わっている立場から意見を述べたいと思います。

#### 2. 大学の捉え方

すべての大学が、「地域との共生」を理念として公民館との連携を実践しているわけではありません。公民館が大学との連携を進める上では、大学側の要素を次のように捉えることが必要です。

- 専門的な教育・研究基盤をもつ組織（機関）であり、地域と連結できる機能－例えば、生涯学習センター等を持っていること。
- 高い専門性や幅広いネットワークをもち、地域との共生を重視している教員がいること。
- 地域との関わりを通して、自己実現を目指している学生（次世代の担い手）がいること。

つまり、大学は地域における有効な社会資源の一つであり、大学の教員と学生は地域住民の一人であるとの認識に立って、大学側の要素を連携に生かしていくことが大切であると考えています。

#### 3. 具体的な事例

新潟医療福祉大学は、平成13年4月に開学した新しい大学ですが、開学とほぼ同時に公民館と連携した地域活動を実践しています。具体的な事例としては、新潟市北地区公民館との連携では、北新潟地域づくり学会（住民主体の地域学－地域づくり－の推進）、学校週5日制対応事業「一休さん」、地域の家庭教育支援の体制づくりに向けた「共育ふおーらむ」、地域の子どもの野外活動体験「サマーキャンプIN海辺の森」、地域学習活動の活性化を担う「地域づくりリーダー研修」等の企画・運営があります。また、新潟市中央公民館との連携では、新潟市の新しい生涯学習センターの運営やボランティアの方法を話し合う市民の集い「トークとーくTalk」、若い世代の生き方を探る「ユースセミナー」等の企画・運営があります。

これらの事例に共通している連携の仕組みを図示すると、右図のようになります。

#### 4. 具体的な事例を通して見えてきたもの

事例の蓄積を通して見えてきた経験的事実を明らかにしてみます。

##### ○連携の三段階

大学と公民館が効果的な連携を進めるためには、まず、相互に協力しあう又は利用するという

# 実践記録 シリーズ 71

## 市町村合併を考える

松之山町公民館



### 1 はじめに

松之山町では、地域課題や現代的課題について学習する機会「町づくり町民講座」を開催していますが、目前に控えた市町村合併をテーマに、シリーズで取り上げてまいりました。

文書や報道だけに頼らず、最大限可能な情報を収集し、みんなで議論し知恵を出し合い、合併するとすれば、より望ましい方向で納得のいく合併を目指したいと考えました。

このようなことから、13年度に県市町村合併支援課伊藤課長補佐様においでいただき、「市町村合併の背景と県の示す合併パターンについて」お話いただいたのを初めに、14年度には「松之山町の将来にとって合併がよいのか、合併しない方がよいのか話し合ひましょ」と佐藤利幸町長を囲んでの意見交換会や、合併問題に独自の考えをお持ちの長野県栄村長高橋彦芳様においでいただき、お話を伺いました。

### 2 町民講座の内容

そして15年度は継続企画として、シリーズで5回開催いたしました。

1回目は、十日町広域圏任意合併協議会に参加せず、自立の道を選択した津南町長小林三喜男様より、その経緯や合併に対する考えをお聞きしました。山あり谷ありの町村を守るのは自分たちしかないことや、平場と山間地では好ましい人口規模は違い、山間地で

は2万人が限度ではないかと力説され、ふるさとに対する思いが強く感じられました。

2回目は、十日町広域圏任意合併協議会会長の中里村長山本茂穂様より、「この地域の望ましい合併について」というテーマでお話いただきました。

3回目は、川西町商工会副会長小林正夫様においでいただき、「活力のある地域づくり、市町村合併による自力か他力か」をテーマに、商工会の立場からお話いただきました。

4回目は、県議会議員村松二郎様においでいただき、県内における市町村合併の状況や、各事務所の所管区域の変更などを交えてお話いただきました。

合併で良くなることは考えられない。でもみんなで決めたことであれば多少の困難・問題は我慢することができる。とみんなでよく考えることの大切さを教えていただきました。

5回目は、町議会議員全員の皆さんに出席を要請し、それぞれの考えをお聞きしました。

当町が加わる十日町広域圏任意合併協議会支持や単独自立支持など意見が分かれていましたが、参加者からは初めて議員一人一人の意見が聞けて良かった。いろいろな考えを聞き参考になった。などの感想と、合併賛成・反対に分かれてディベートを行ったらどうかという意見もいただきました。

### 3 ふり返って

人口3000人ほどの小さな町での「町づくり町民講座」ですが、「シリーズ市町村合併を考える」では、100名を超える参加者を得た時もあり、住民の関心の強さを感じました。

そして講座に参加した皆さまから、大変良い講座であった。いろいろな考えを聞き参考になった。自立・合併いずれにしても地域の自治組織の確立が必要であり地域が基礎である。これからの町民のやりやすい方向へ転換してほしい。など前向きな意見を沢山いただきました。

限られた時間の中で、まだまだ議論し尽くせない状況であり、未だ方向を模索しているところですが、お忙しい中にもかかわらずおいでいただいた講師の皆様へ感謝し、町民の皆様と共にいろいろな角度から沢山の貴重なお話をお聞きすることができたことに心より感謝しています。

そして、この講座が今後の方向づけに大きな力となってくれることを望んでいます。

### 町づくり町民講座

シリーズ「合併を考える」

市町村合併により、地域圏二圏体制が実現する。中国は、十日町商工会副会長 小林正夫氏 においで頂きます。川西町商工会においでいただき、市町村合併が地域圏に発展するかなどお話しさせていただきます。どんな内容でも方向づけようとしているので、どうぞ。お気軽にご参加ください。

日時 平成15年8月8日(金)  
午後7時30分～9時

会場 松之山町自然休養村センター

講師 川西町商工会副会長 小林正夫 様


演題 「活力ある地域づくり」  
副題 ― 市町村合併による自力か他力か ―

中国副会長 田 二朗氏

十日町商工会副会長 小林正夫氏

十日町商工会副会長 小林正夫氏

副会長 田 二朗氏



2階特別室 特別講演室にて開催。

主催：松之山町・松之山町公民館

温故知新—古文書

古文書同好会

私共の会は、平成9年に県文書館の古文書講習会が開催された後、折角だから継続しようと同好会を立ち上げ、毎月1回飽く事なく和やかに学んで居ります。会員は30名弱で、昔の栃尾の暮らし振りを解読以上に話題提供の場になつて居ります。学習の他、公民館の手厚い御協力も有つて年1回1泊研修や市内研修



も非常に楽しく行い、今年何処と毎年催促が出来ます。又3月講座の後では必ず、留年式祝と称して、全員で懇親会です。会員の方も毎月講座日を待つて居て、公民館講座で一番出席率が良いようです。又持ち込まれた古文書解読も手掛けて居り、2月には銀行ロビーで展示予定です。

（栃尾市・古文書同好会 会長 渋谷 一二 記）



大型紙芝居の制作

おはなしひろば「つくしんぼ」

私達おはなしひろば「つくしんぼ」は、絵本や紙芝居が大好きな主婦達の集まった読み聞かせサークルです。毎月第4土曜日に、中之島



町町民文化センターで絵本や紙芝居の読み聞かせ「おはなしひろば」を開催しています。月のテーマを決め、季節や行事にちなんだお話を読んでいます。そして、子ども達がより楽しめるような簡単な工作もしています。

私達が特に力を入れて取り組んでいることは、大型紙芝居の制作です。畳一枚くらいの大きさのボール紙に絵本を題材にして絵を描き、大型紙芝居を作ります。絵本の枠を越えて、幅広くお話の世界を楽しんでほしいという願いを込めてお話を届けていきます。

（中之島町・つくしんぼ 大竹 由子 記）

今年度、産業課から異動してきた佐藤君は男も惚れるいい男です。彼の仕事は公民館事業や図書館の事務、子どもたちの体験事業「なんでも探検隊」の企画運営に至るまで多岐に渡ります。小学生からお年寄りまで幅広い年齢層の住民と接している彼ですが、人前でも巧みな話術とパフォーマンスで、篤い信頼を得ています。

職場にあっては超一流の神林

神林村教育委員会生涯学習課 主事 佐藤真利さん



弁を操り、周田とのコミュニケーションを円滑に進め、仕事をエンジョイしているようです。

また、役場野球部のキャプテンとして、時にはお酒を酌み交わしながらチームをまとめる努力を怠りません。そして、庁内きつての熱烈なアルビサポーターとして有名な彼は、今年も魂のこもった応援で日本狭しと飛び回ることでしょう。

（神林村教育委員会 主事 遠山 優子 記）

昨年の春、颯爽と配属されてきた元好青年。彼を一言で表わすなら『打てば響く』がぴったり。と言っても太鼓のような体型ではなく長身でスラリとしており、独身時代はさぞかし…？（ちなみに現在は2児のパパなのだ）中央公民館勤務は初めてだが、社会教育に関しては経験豊かで知識も豊富。どんな仕事もスピーディにスマートにやってしまう。まさに、打てば

三条市中央公民館 主査 阿部博文さん



響く仕事ぶりである。そのため周りから何かと頼りにされ、なかなか忙しさから開放されない。さらに子ども事業等で、休日出勤もたびたび。そこで気になるのが、家庭サービスは大丈夫？でも心配ご無用。奥様とご家族の暖かい理解と大いきな愛に包まれ、きっと家庭でもとって頼りがいのあるパパに違いない。

（三条市中央公民館 安田 恵子 記）

素顔 拝見

# Net work

## ネットワーク

全公連  
社団法人 全国公民館連合会

### 資料紹介

### 郷愁蒲原祭

「スペースが空いたら資料欄で紹介してみたら」、今井県公連会長から手渡されたのがこの冊子です。  
手に取ってみて、まず装丁のすばらしさにびっくり、とくに表紙、表紙絵のサインはT. Tomitaとあり、そして書名題字あきともの落款をみて、羨望に近いものを感得した次第です。  
早速、表題「郷愁蒲原祭」に不思議さを感じながら頁をめくることがなりました。  
内容は、○青少年期(短歌、俳句、川柳、詩等)○中年時代

(PTA・組合紙他、川柳ボスト誌、仕事のつぶやき等)○退職後(寄稿文他、通信協会雑誌等)にいがた市民文学、新潟日報窓欄等)のジャンル別、初出順に



### 岡本 昭人

編集されており、同年代に近く生きた者として、青少年期の著者の実体験に基づく詩作は、とくに感銘深く読み味わせていただきました。  
蒲原祭との出会い・感動が著者の心の基底、そして郷愁として流れており、表題となったことも知りませんでした。  
限られた字数の中での紹介のもどかしさを痛切に感じながら、現在、新潟市中央公民館をこよなく愛し、支援されておられる著者に、最大の敬意と感謝の念を表したいと思えます。

### 「子どもの居場所」各館のとりくみ

館名	住所	電話 FAX	事業名	対象	実施期間	備考
中央公民館	西堤5-873-1	TEL:025-223-7070 FAX:025-223-4572	学習室	小学生以上	毎週・金・土・日 9:00-17:00	
中区公民館	吉川町4-12	TEL:025-271-0017	フリースペース「ホットプレイス」 学習室	中・高校生 小学生以上	中・高校生 13:00-17:00(日曜日は16:30まで) 小学生 9:00-17:00(日曜日は16:30まで) 夏休み期間 9:00-17:00(日曜日は16:30まで)	
坂井精地区公民館	寺岡上3-1-1	TEL:025-269-2043	フリースペース「SaturdayLのび」 香・書・学びみフリースペース 学習室	小学生から18歳まで 中学生から18歳まで 小学生以上	毎月土曜日 13:00-17:00(平日も早く) 香・書・学びみ期間 13:00-17:00(日曜日は16:30まで) 香・書・学びみ期間 13:00-17:00(日曜日は16:30まで) 18歳以上は9:00-17:00	スタッフあり
石山地区公民館	石山1-12	TEL:025-286-5631	フリースペース 学習室	中・高校生 土曜日 日曜日	中・高校生 9:00-17:00 土曜日 日曜日 9:00-17:00	
西地区公民館	内野町603	TEL:025-261-0031	まなび屋 学習室	小学生以上	木曜日 17:00-20:15 香・書・学びみ期間 月～金曜日 9:00-17:00	スタッフあり
鳥屋野地区公民館	新103-3-1	TEL:025-285-2371	とやのフリースペース 学習室	中・高校生 小学生以上	毎週土曜日 13:00-17:00 香・書・学びみ期間 9:00-17:00	12月実施予定
北地区公民館	心通1-7-1	TEL:025-259-7330	学習室	小学生以上	香・書・学びみ期間 9:00-17:00	
東地区公民館	外瀬町7-1	TEL:025-241-4119 FAX:025-241-4138	中学生フリースペース 学習室	小学生以上 小学生	年間 9:00-17:00 月～金曜日 13:00-17:00(月曜日は16:00-) 毎週 9:00-17:00	
管野木地区公民館	天野2-7-2	TEL:025-280-6810	フリースペース「そとびあ」 香・書・学びみフリースペース 学習室	中・高校生 小学生以上 小学生	第1土曜日 13:00-17:00 香・書・学びみ期間 13:00-17:00(日曜日も早く) 第1土曜日 13:00-17:00 香・書・学びみ期間 9:00-17:00(日曜日も早く)	スタッフあり
飯塚地区公民館	飯塚町1308-148-1	TEL:025-256-4339	フリースペース「好きさROOM」 フリースペース「座・オアシス」 学習室	中・高校生 中・大・小学生	香・書・学びみ期間 13:00-18:00(日曜日も早く) 公民館開館時 9:00-18:00 香・書・学びみ期間 9:00-18:00 香・書・学びみ期間 9:00-18:00 香・書・学びみ期間 16:45まで終了	スタッフあり
黒地地区公民館	大野町2843-1	TEL:025-377-3101 FAX:025-377-6974	フリースペース「黒地ゆうYOU館」 学習室	中・高校生 小学生	第1土曜日 10:00-12:00 香・書・学びみ期間 9:00-17:00 ※館に講堂が設けられてる公民館	スタッフあり ※2階・3階あり
小針青山公民館	小針2-24-1	TEL:025-230-1071 FAX:025-230-1072	地域ふれあいサロン プレイルーム開放事業 夏休み学習室	小学生以上 小学生以上 小学生以上	第1土曜日 9:30-12:00 第2土曜日 13:00-17:00 日 9:00-17:00 香・書・学びみ期間 9:00-17:00	スタッフあり

## event information

### 「子どもの居場所」各館のとりくみ



**あとがき**  
昨年2月、月報A4判化移行以来、一年経過いたしました。大幅な紙面構成の変更と2色刷りに対しての反響が、いろいろありました。とくに男性の方から、赤色系は読みづらいという声も寄せられました。月報編集委員会が検討し、4月号から一部修正した形で刊行することとしております。  
どうぞ、これからもよろしくお祈いします。(鈴木 記)

表紙解説 スノーシュー講座「ちょっと休憩！」(入広瀬村) 県立浅草山麓エコマニエーション事業スノーシュー講座のひとつです。